

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075300154
法人名	社会福祉法人 小竹福祉会
事業所名	グループホーム 新多園
所在地	福岡県鞍手郡大字小竹新多上日177-8
自己評価作成日	平成26年1月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成26年1月16日	評価結果確定日	平成26年3月12日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居されたときより、少しでも日常生活動作が向上されるよう又いつまでも健康で過ごしていただけるように 歩行場面をつくり歩行の安定や離床を心がけ下肢筋力低下防止にも気をつけています</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>広い敷地内では、梅や蜜柑、金柑、筍等、四季折々の実りが収穫出来る、豊かな生活環境の中にある事業所である。近隣の同法人介護老人福祉施設やデイサービス事業所とは、行事等の交流や災害対策等にて、密な連携が図られている。地域のふれあい祭では入居者のフラワーアレンジメントの作品が展示され、入居者の大きな喜びとなった。また同法人施設の行事参加等を通じて、旧交を温める機会もあり、地域の馴染みの神社参拝等、これまでの暮らしの継続にもつながっている。日常の中では、「遊び」を通じた機能維持、活用に向けた働きかけや、介護計画にも自立支援の方向性を明確にしながら、暮らしの継続を支援している。在宅医療連携拠点事業としての指定を受ける協力医療機関との密な連携体制が築かれ、入居者、家族、職員にとって、安心できる環境作りに取り組んでいる。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝 朝礼で理念の唱和をし 沢山の笑顔を引き出せるよう支援を心がけている	管理者、職員は、毎朝の申し送り時に理念を唱和すると共に居間に掲示し、意識付けを行いながら、共有や実践に繋げるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には、行えていないが同法人施設と合同で 近隣の幼稚園 小学校 中学校の職場体験、高校の実習を受け入れ交流が出来る機会をつくり 町主催のふれあい祭りに地域の一員として作品出展し見学にも出かけるようにしている	地域の行事が少なくなっている中ではあるが、町主催のふれあい祭りに入居者の生け花が展示され、入居者の喜びとなったり、同法人施設の雛祭りには近隣小学生も招待され、入居者も参加する等、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行っていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時は活動報告 利用者の状況 入院経過 退園経過 空室等 報告行っている 委員の方より利用者の紹介があり 入居に繋がった	運営推進会議は、入居者、家族代表、地域住民代表、元民生委員、町役場職員等の出席を得て、二ヶ月に1回定期的に開催されている。活動状況の報告を行いながら出された意見は真摯に受け止め、運営への反映に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月 福祉課へ利用者状況報告等随時出向しており又運営推進委員としても 当ホームへ来園させていただいている為その場での質問等にも親身に対応していただいている 些細なことでも相談しやす関係を築けている	町職員の運営推進会議への参加を受けており、細かい相談も随時窓口にお問い合わせ、連携を図って行っている。グループホームが町内で6箇所運営され、休止していたグループホーム担当者会議を、町役場との協力により、再開予定であった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は、就寝時以外しておらずいつでも出入りできるようにしている 睡眠薬常用される方はおられない 精神安定剤服用者はおられる 身体的拘束をしないケアを 維持している	身体拘束をしないケアについて、禁止の対象となる行為や拘束による弊害について職員への周知を図り、管理者は毎回の申し送り時や、気が付いた時点で、助言、指導を行って、資質の向上に努めて行っている。玄関や他の出入り口も、日中は施錠されておらず、さりげない見守りに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時には、身体の観察等行い打ち身？等があれば 報告 部位の確認 移乗時等介助方法について検討し又 ちょっとしたことで 内出血しやすいので 極力利用者さんが介助者を握る 掴むよう声かけするよう指導をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関内に資料等置いているが、今現在 問い合わせ等はあっていない 資料の持ち帰りもない 2名の方は成年後見制度利用されている	権利擁護に関する制度を活用している方もおり、毎月、成年後見人の方の訪問を受け、意見交換や情報共有を図っている。制度の理解や活用の為のパンフレットも常備し、問い合わせに対応出来る様にしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明時及び後日でも 質問等あれば随時対応し納得と理解をしていただけるように 努めている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には必ず声をかけ個人記録等開示 参照しながら 日常生活を報告し 本人の日のごろの様子を共有するように努めている	毎月、日頃の様子等を盛り込んだ「ほのぼの便り」を発行し、請求書と共に家族へ郵送している。来訪の家族には、意見の出し易い様配慮し、出された意見、要望は職員間で共有し、解決して行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現状維持	毎日の申し送り時、管理者は意見の出し易い雰囲気作りに努め、出された意見はまとめて施設長へ報告し、働き易い職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が考課表で勤務態度等 個々の実績 努力した点等を評価し 賞与・昇給に反映している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたり規定はなく 面接時に感じられる人柄や清潔感 協調整のある方を採用している 面接には施設長 管理者が行っている 余暇活動においても希望休暇に対応 充実できるよう配慮をしている 又心身のリフレッシュをし勤務に望めるよう努めている	採用にあたっては、施設長、管理者の面談にて行われ、性別や年齢等を理由に採用対象から排除はしていない。採用後は職員一人ひとりの能力や経験が発揮されるよう、管理者は機会の創出に努めている。設立11年目に入り、業務内容の改善を図り、より良い勤務体制作りの考えがあった。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	特に改まったの教育は行ってはいないが、報道等で知った 人権侵害等の事件について 朝礼や昼食中に話題となり 自然とケアについて話し合われることが、職員に浸透していると認識している 研修等も 人権尊重、より良いケア意識していくなか 学習する機会を確保したい	「利用者の権利」「ホームの倫理綱領」を掲示し、朝の申し送り時や、言葉遣い、接遇全般で日々のケアを通しながら人権、啓発活動を行っている。外部の研修参加や、社会的な事例を話題として意見交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ向上の為、経験年数等に応じた技術向上研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、リーダー研修を受講している最中である 又希望者には、興味のある研修も合わせて受講できるよう配慮している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同町内のGH集会在、再開することとなりネットワーク作りも勿論だが情報交換の場が出来、今後の活動に活かしていきたい		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の希望があればご本人、家族との調整を行ないご本人及びご本人の係つけ医との面談を出来るだけ早く行ない ご本人とのコミュニケーションを図るよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談があった時より関係づくりが始まり 今一番の困りごと又要望等を傾聴し緊急性の有無を見極め 見学 訪問の調整等を行っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、家族の困りごとに耳を傾け当ホームで提供できるサービスや 他のサービスもお伝えし ご本人にとって一番良い支援となるよう対応に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私たちの家族という認識 利用者の身内 知人等 場面場面の登場人物になり代わりながら 共に暮らす物として寄り添い 良い関係づくりが出来るよう支援している		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と疎遠にならないよう 又 委ねきりにならないように本人の思いや状況など伝え 外出外泊の希望があれば 支援し 面会時のわずかな時間でも 家族と自室等でお茶等飲んでいただき家族とのひとときをゆっくり過ごしてもらえよう対応している		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と疎遠になられていたが 何十年ぶりに再会されたり 長年住まれていた近所の知人が 尋ねられたりと この面会をきっかけに今後も本人との関係が繋がっていくよう支援したい	近隣の同法人施設での行事に参加した際に、旧知の方と会う機会も有り、隣接の同法人デイサービスを利用している親族の方の訪問も定期的に受ける等、家族とも協力しながら関係継続の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	段々周囲に無関心になっていられる中 会話の橋渡しや 夫婦入居されている方には お互いが気に掛けておられること等を話題にし いつも側にいてもらうように配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院 退所 同法人施設に入居となられても 御見舞い 様子伺い又 季節の便りを継続している 訃報が分かれば 弔問に参列しています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本 自由に生活していただいているが、意向が見えてこないときは 声かけ等行なっている 賛同いただけないときは、気分等良いとき再度促している	さりげない日常の中から、思いや意向、悩みなどの出し易い雰囲気作りに努めている。困難な場合は家族からの情報や普段何気ない行動の中から、潜在する思いの把握に努め、本人本位の検討に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職歴等を家族から伺ったり 個々の会話の中でよく出てくる場所 名前等を面会時家族に尋ねたりして今までの暮らしぶり等を収集していくよう努力している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースを大切に 集団生活に少しずつ馴染んでいただけるよう支援している 日常の中で出来そうな事を多く見つけ出し お一人お一人の状態に沿うよう 役割を持っていただけるよう努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の中で変化が有った時などの様子を記録している日課表を基に 担当者がモニタリングしながら現在の状況に沿うように作成している 新入居者時は、プランの変更が遅れ気味となっている	介護計画作成にあたり、職員が担当制で一人ひとりの把握を行いながら案件を出し、計画作成担当者が、家族への窓口となり、全員で作成する介護計画となっており、本人本位に基づいた具体的な目標設定や暮らしの反映が確認できる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の訴え、希望等 日課表 伝達ノートに記録している 即、改善出来ることは 対応し 又 継続的なことを含め 計画に反映している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が病気や高齢等の状況に応じ 日用品消耗品等の購入 又 入院退院時送迎 必要品の準備運搬 支払い等行い 安心できるよう支援をしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア 幼稚園 小学校 中学校の慰問や職業体験 職業訓練学校の実習先とし何らかの形で 関わりながら地域の一員としていく支援を行えるようしている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時 協力医の往診について説明し 納得された方のみ 病院 調剤薬局と契約をしていただいている 病状的に係りつけ医の通院が必要な方は、継続して治療をして頂き 情報の提供を行ない適切な診療が受けれるよう支援している	入居時に、かかりつけ医について確認している。月2回の訪問診療体制を整備し、他科受診についても職員が同行する等、適切な医療を受けられるよう支援を行っている。訪問歯科診療も実施され、経過についてもFAX等にて情報共有を図っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護 月2回の往診 又 臨時往診 臨時訪問看護 同法人施設の看護師といつでも相談等できる環境にある オンコール体制で安心して診療してもらえるよう体制にしている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御見舞いに伺い 主治医、家族との情報を共有し 病状安定を目安に 早期退院の相談を行なっている 又 入院が長期になられても ソーシャルワーカーとの連絡は途切れることなく 情報収集し本人にとって良い状態での退院の調整を行なっている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時 早い段階で協力医より 家族と面談にて今後の治療に対するご希望を確認される 状態の変化に伴い その都度 家族と面談され今後の治療に対する希望等確認を取り直され職員にも説明がある 協力医 訪問看護と情報の共有と連携にて 本人、家族の希望を支援している	入居時に、事業所としての可能な支援について説明を行い、重度化した場合の対応にかかわる同意書を作成して、本人、家族の意志確認を行っている。対応方針の共有を図って行く為にも、来年度は終末期に向けた外部研修に力を入れ、より一層の職員の資質の向上を図って行きたい考えにあった。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医関連による 急変時 応急手当初期対応等の訓練を 調整中である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は、昼・夜間帯と 出勤職員にて毎年実施しているが、地震 水害等はおこなえていない 町内の避難場所のマップは今 検討中であるとの返答 今後、町全体を視野に入れて 協力体制を築いていきたい	年2回、昼夜想定で、同法人施設及びデイサービス事業所との連携を確認し、合同で避難訓練を実施している。避難訓練の様子は写真を廊下に掲示し啓蒙を行っている。運営推進会議でも避難訓練の実情を報告している。事業所が高台に位置する為、町の災害避難場所指定の案も浮上しているとの事であった。法人全体で備蓄を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しつつ親近感を表現するため 利用者に違和感をもたれない範囲内であえて 地域の方言を取り入れ 声かけ おしゃべりをしている 個人情報規定に基づき ホーム内に利用目的を明記し掲示している 契約時に同意書をいただいている	日々の業務の中で、言葉遣い、羞恥心、生活暦等への配慮を念頭に置き、管理者は指導を行っている。排泄ケアや入浴時の対応については特に留意し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	馴染みの関係を作りながら 個々の話を傾聴する環境づくりを心がけており 希望等を表示していただいた時 本人の自己決定に沿うよう支援している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝が苦手な方など その日の起床時間で食事時間を遅らせたり 横になりたければ、いつでも自室に戻られて臥床されておられ 自由に過ごされている アソビをする時は、声かけをし参加を促しているが 無理強いはいしていない		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月毎に移動美容室の訪問があり 希望者が利用している ご自分で要望を言われる方や 又家族の希望を施術士に伝達している 衣服については、家族が用意されている中から好みの衣類を着ていただいている 時々アドバイス等も支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方の出来そうな事を見つけて一緒にしていただいているが、現在は、食事後の食器を返却していただく事になっている	食材は専門業者により配達され、台所からは担当職員による調理の様子が伝わり、個別の形態への配慮や温かい食事の提供等、細やかな支援が行われている。梅ちぎりから梅干作りまで行ったり、スイーツの喫茶外出等にて、気分転換を図る機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材購入 献立は、委託しているので、栄養バランスは摂れている 水分摂取量チェックも行ない 季節に応じ強化をし 健康に留意している 嚥下困難な利用者の方には、トロミ剤の調整行ない少しでも摂取していただける様 支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3~4回/日口腔ケア 舌ブラシ使用 就寝前に義歯洗浄剤に毎晩浸し 美味しく食事が出来るよう 口臭予防にも気をつけている 食事時の観察も行い 咀嚼時の異変等あれば家族に連絡し 承諾のもと 歯科受診と繋げ 口腔内点検や治療等 必要であれば今後のケアの方法等指導をうけている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のある方は、ご本人の意思にまかせているが、尿意の無い方は、日々の排泄チェックを参考に時間誘導にて トイレでの排泄に繋がる様 支援を行っている	自尊心に配慮しながら、排泄チェック表にて、一人ひとりの習慣やパターンを把握している。遊ビリ運動を兼ねてトイレへの誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	アソビリ運動 日課に取り入れ 水分摂取量 食事摂取量 排泄チェックでの排泄パターンの把握等行ないトイレ誘導で排泄を促しているが、3日間排泄無いときは、主治医の指示に従い対応をしている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は毎日入浴が出来るようになっている 体調によって2~4回/週入浴していただいている 好みのシャンプー 洗顔等を使用されている方もおられる 浴槽のまたぎが困難な方には同法人 特養の機械浴を利用していただき 湯船に浸かっていただける支援をしている 歳時にあわせ菖蒲湯 柚子湯 入浴剤等使用し 楽しんでもらえるように工夫をしている	毎日入浴準備を行い、体調に合わせて全員が湯船に浸かれるよう、安全面を考慮しながら、基本的には一日おきの入浴を行っている。ゆず湯や入浴剤を利用し、入浴を好まない入居者にも工夫しながら楽しく入浴出来る様支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	現状維持		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の内服については【薬説明書】往診ファイルに綴じており 何を服薬しているか いつでも確認できるようにしている さらに詳しく知りたいとき等は、薬早分かり事典を利用し理解出来るようにしている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の日課として カーテンの開閉 食事の挨拶 献立記入 日めくり捲り 洗濯量等 個々が出きる役割を決めて お手伝いしてもらったり 順番にさせていただく等 やりがいいに繋がる支援に努めている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人手と協力しながら出かけられるように支援している	個別対応は 行えていない 気候の良い日は皆でホーム外周を散策しお花見を楽しんでいる 例年近郊に何分咲きか下見に行き満開を待って観賞に行っている 外出とは言いがたいが、敷地内で梅ちぎり みかん狩りを楽しんでもらっている お盆 お正月等は家族の協力で 外出外泊が出来る方がある 年々外出も減少しつつある	日常的には、広い敷地内や周辺の散歩を天候や体調に合わせて行っている。出来るだけ全員で出掛けたい管理者の考えのもと、花見や神社参りに出かけている。敷地内では、梅、蜜柑、金柑、筍等、四季折々の収穫を楽しむ事が出来、気軽な外気浴が可能な環境である。	重度化へと移行している中で、敷地内の豊かな環境を活かしながら、短い時間でも外気浴を支援する等、日常の中での気分転換や五感刺激の場面として活用されることが期待されます。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金に関しては、家族にお任せしており 誰が所持しているか把握はしていない 外出時に必要であれば、お金を渡し安心して購入してもらっている(立替)		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は誰が使用してもよいようになっており 必要時に利用されている 又 家族に用事があるとされる時は、職員が番号を押して受話器を手渡したり 相手が出られ今お話できる状況かを確認してから受話器を渡したりと支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	現状維持	高い天井の居間兼食堂は、大型ソファが二組置かれ、畳敷きの掘炬燵と共に、各所に寛ぐ場所が確保され、それぞれ好きな場所でテレビを見たり、生き生きした風景があった。三箇所のトイレは動線少なく安全に利用出来る様設計されている。テレビの前のフラワーアレンジメント教室の作品には、入居者の名前が置かれ、個人を尊重した支援が行われていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現状維持		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居当初に 自宅で使用されていた主なものは、ほぼ搬入されるが 生活されていく中で利用者の生活動作に合わせながら 家族と相談し 衣類、家具等の調整を行ないご本人が快適に暮らせるよう随時支援している	各居室の窓からは広い敷地内の四季折々の風景が見られ、閉塞感の無い居室となっている。居室には使い慣れた調度品や好みのものが持ち込まれ、一人ひとり居心地良く過ごせる様支援を行っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る事 出来そうな事を見極め 体調の変化にも十分気をつけながら 情報の共有の基、安心安全 穏やかに 又自分らしく暮らしていただけよう支援に努めている		